

資料Ⅲ－１：結果概要

問４－１．テキスト(購入指定の市販の書籍)の有無

		対象数	a. 有		b. 無		無回答	
			数	%	数	%	数	%
基礎看護学	3年課程専門学	101	94	93.1	7	6.9	3	3.0
	短期大学							
小児看護学	4年制大学	95	89	93.7	6	6.3	2	2.1
	3年課程専門学							
成人看護学	短期大学	97	94	96.9	3	3.1	5	5.2
	4年制大学							
老年看護学	3年課程専門学	100	94	94.0	6	6.0	0	0.0
	短期大学							
精神看護学	4年制大学	90	86	95.6	4	4.4	4	4.4
	3年課程専門学							
母性看護学	短期大学	91	85	93.4	6	6.6	1	1.1
	4年制大学							
在宅・地域看護学	3年課程専門学	95	93	97.9	2	2.1	2	2.1
	短期大学							
	4年制大学							

問４－２．テキスト使用の程度

		対象数	a. テキストを中心に 進めている		b. 補助的に使用し ている		c. その他		無回答	
			数	%	数	%	数	%	数	%
基礎看護学	3年課程専門学	100	19	19.0	74	74.0	11	11.0	4	4.0
	短期大学									
小児看護学	4年制大学	91	27	29.7	62	68.1	8	8.8	6	6.6
	3年課程専門学									
成人看護学	短期大学	96	29	30.2	67	69.8	5	5.2	6	6.3
	4年制大学									
老年看護学	3年課程専門学	97	18	18.6	75	77.3	6	6.2	3	3.1
	短期大学									
精神看護学	4年制大学	93	22	23.7	68	73.1	10	10.8	1	1.1
	3年課程専門学									
母性看護学	短期大学	90	31	34.4	56	62.2	4	4.4	2	2.2
	4年制大学									
在宅・地域看護学	3年課程専門学	97	18	18.6	81	83.5	3	3.1	0	0.0
	短期大学									
	4年制大学									

資料Ⅲ－１：結果概要

問5－1. 教育内容の調整

		対象数	a. 看護学全領域で調整している		b. 必要に応じて調整している		c. 調整していない		無回答	
			数	%	数	%	数	%	数	%
基礎看護学	3年課程専門学	101	27	26.7	69	68.3	5	5.0	3	3.0
	短期大学									
小児看護学	3年課程専門学	97	20	20.6	71	73.2	6	6.2	0	0.0
	短期大学									
成人看護学	3年課程専門学	100	24	24.0	73	73.0	3	3.0	2	2.0
	短期大学									
老年看護学	3年課程専門学	98	24	24.5	70	71.4	4	4.1	2	2.0
	短期大学									
精神看護学	3年課程専門学	94	18	19.1	71	75.5	5	5.3	0	0.0
	短期大学									
母性看護学	3年課程専門学	89	19	21.3	64	71.9	6	6.7	3	3.4
	短期大学									
在宅・地域看護学	3年課程専門学	94	23	24.5	63	67.0	8	8.5	3	3.2
	短期大学									

問5－2. 学内における教育

		対象数	a. 理論や考え方を重視している		b. 看護技術を重視している		c. その他		無回答	
			数	%	数	%	数	%	数	%
基礎看護学	3年課程専門学	101	46	45.5	20	19.8	35	34.7	3	3.0
	短期大学									
小児看護学	3年課程専門学	93	84	90.3	0	0.0	9	9.7	4	4.3
	短期大学									
成人看護学	3年課程専門学	98	78	79.6	4	4.1	16	16.3	4	4.1
	短期大学									
老年看護学	3年課程専門学	99	77	77.8	9	9.1	13	13.1	1	1.0
	短期大学									
精神看護学	3年課程専門学	92	74	80.4	6	6.5	12	13.0	2	2.2
	短期大学									
母性看護学	3年課程専門学	84	69	82.1	5	6.0	10	11.9	8	9.5
	短期大学									
在宅・地域看護学	3年課程専門学	94	77	81.9	4	4.3	13	13.8	3	3.2
	短期大学									

資料Ⅲ－１：結果概要

問5－3. 臨地における教育

	対象数	a. 思考過程(看護計画立案等)を重視している		b. 看護実践を重視している		c. その他		無回答	
		数	%	数	%	数	%	数	%
基礎看護学	97	53	54.6	21	21.6	23	23.7	7	7.2
小児看護学	92	49	53.3	22	23.9	21	22.8	5	5.4
成人看護学	93	54	58.1	14	15.1	25	26.9	9	9.7
老年看護学	97	51	52.6	25	25.8	21	21.6	3	3.1
精神看護学	87	36	41.4	32	36.8	19	21.8	7	8.0
母性看護学	84	43	51.2	19	22.6	22	26.2	8	9.5
在宅・地域看護学	90	55	61.1	20	22.2	15	16.7	7	7.8

問6－1. <教育単位構築にあたっての意図(考え方)>に関連して、教育単位の組み立て方についてお尋ねします

	対象数	a. 適切である		b. その他の意見がある		c. 無回答	
		数	%	数	%	数	%
基礎看護学	97	63	64.9	34	35.1	7	7.2
小児看護学	93	74	79.6	19	20.4	4	4.3
成人看護学	99	61	61.6	38	38.4	3	3.0
老年看護学	96	67	69.8	29	30.2	4	4.2
精神看護学	89	67	75.3	22	24.7	5	5.6
母性看護学	85	65	76.5	20	23.5	7	8.2
在宅・地域看護学	86	55	64.0	31	36.0	11	12.8

資料Ⅲ－１：結果概要

問6-2. 各教育単位にとりあげられている“看護技術”についてお尋ねします

		対象数	a. 適切である		b. その他の意見がある		c. 無回答	
			数	%	数	%	数	%
基礎看護学	3年課程専門学	98	56	57.1	42	42.9	6	6.1
	短期大学							
小児看護学	4年制大学	92	60	65.2	32	34.8	5	5.4
	3年課程専門学							
成人看護学	短期大学	95	50	52.6	45	47.4	7	7.4
	4年制大学							
老年看護学	3年課程専門学	96	54	56.3	42	43.8	4	4.2
	短期大学							
精神看護学	4年制大学	89	61	68.5	28	31.5	5	5.6
	3年課程専門学							
母性看護学	短期大学	84	43	51.2	41	48.8	8	9.5
	4年制大学							
在宅・地域看護学	3年課程専門学	85	53	62.4	32	37.6	12	14.1
	短期大学							
	4年制大学							

問7-1. 教育単位の内容の構成を“前提”“中心的に取り上げる学修内容”
“発展・向上にかかわる内容”として整理することについてお尋ねします

		対象数	a. 適切である		b. その他の意見がある		c. 無回答	
			数	%	数	%	数	%
基礎看護学	3年課程専門学	97	85	87.6	12	12.4	7	7.2
	短期大学							
小児看護学	4年制大学	94	78	83.0	16	17.0	3	3.2
	3年課程専門学							
成人看護学	短期大学	96	81	84.4	15	15.6	6	6.3
	4年制大学							
老年看護学	3年課程専門学	92	75	81.5	17	18.5	8	8.7
	短期大学							
精神看護学	4年制大学	89	74	83.1	15	16.9	5	5.6
	3年課程専門学							
母性看護学	短期大学	83	69	83.1	14	16.9	9	10.8
	4年制大学							
在宅・地域看護学	3年課程専門学	81	69	85.2	12	14.8	16	19.8
	短期大学							
	4年制大学							

資料Ⅲ－１：結果概要

問7-2. 教育単位の展開の中で、“中心的に取り上げる学修内容”に見合う“教育方法”の設定と“教育評価”の組み入れの必要性についてお尋ねします

		対象数	a. 必要である		b. その他の意見がある		c. 無回答	
			数	%	数	%	数	%
基礎 看護学	3年課程専門学	93	80	86.0	13	14.0	11	11.8
	短期大学							
小児 看護学	3年課程専門学	94	79	84.0	15	16.0	3	3.2
	短期大学							
成人 看護学	3年課程専門学	93	87	93.5	6	6.5	9	9.7
	短期大学							
老年 看護学	3年課程専門学	89	77	86.5	12	13.5	11	12.4
	短期大学							
精神 看護学	3年課程専門学	85	76	89.4	9	10.6	9	10.6
	短期大学							
母性 看護学	3年課程専門学	81	73	90.1	8	9.9	11	13.6
	短期大学							
在宅・地域 看護学	3年課程専門学	76	71	93.4	5	6.6	21	27.6
	短期大学							

資料Ⅲ－２：テキスト（購入指定の市販の書籍）の有無

		対象数	a. 有		b. 無		無回答	
			数	%	数	%	数	%
専 3 門 年 学 課 校 程	基 礎 看 護 学	38	38	100.0	0	0.0	1	2.6
	小 児 看 護 学	37	36	97.3	1	2.7	1	2.7
	成 人 看 護 学	39	39	100.0	0	0.0	2	5.1
	老 年 看 護 学	41	40	97.6	1	2.4	0	0.0
	精 神 看 護 学	35	34	97.1	1	2.9	2	5.7
	母 性 看 護 学	35	34	97.1	1	2.9	1	2.9
	在 宅・地 域 看 護	38	37	97.4	1	2.6	0	0.0
短 期 大 学	基 礎 看 護 学	31	30	96.8	1	3.2	0	0.0
	小 児 看 護 学	28	28	100.0	0	0.0	0	0.0
	成 人 看 護 学	31	30	96.8	1	3.2	1	3.2
	老 年 看 護 学	29	29	100.0	0	0.0	0	0.0
	精 神 看 護 学	28	28	100.0	0	0.0	0	0.0
	母 性 看 護 学	30	30	100.0	0	0.0	0	0.0
	在 宅・地 域 看 護	30	30	100.0	0	0.0	0	0.0
4 年 制 大 学	基 礎 看 護 学	32	26	81.3	6	18.8	2	6.3
	小 児 看 護 学	30	25	83.3	5	16.7	1	3.3
	成 人 看 護 学	27	25	92.6	2	7.4	2	7.4
	老 年 看 護 学	30	25	83.3	5	16.7	0	0.0
	精 神 看 護 学	27	24	88.9	3	11.1	2	7.4
	母 性 看 護 学	26	21	80.8	5	19.2	0	0.0
	在 宅・地 域 看 護	27	26	96.3	1	3.7	2	7.4

資料Ⅲ－３：テキスト使用の程度

		対象数	a. テキストを中心に 進めている		b. 補助的に使用し ている		c. その他		無回答	
			数	%	数	%	数	%	数	%
専3 門年 学課 校程	基礎看護学	38	11	28.9	25	65.8	2	5.3	1	2.6
	小児看護学	38	18	47.4	19	50.0	3	7.9	0	0.0
	成人看護学	39	18	46.2	20	51.3	2	5.1	2	5.1
	老年看護学	41	11	26.8	30	73.2	2	4.9	0	0.0
	精神看護学	37	15	40.5	25	67.6	1	2.7	0	0.0
	母性看護学	36	20	55.6	15	41.7	1	2.8	0	0.0
	在宅・地域看護	38	13	34.2	27	71.1	1	2.6	0	0.0
短期 大学	基礎看護学	30	4	13.3	22	73.3	5	16.7	1	3.3
	小児看護学	28	8	28.6	20	71.4	3	10.7	0	0.0
	成人看護学	31	8	25.8	23	74.2	2	6.5	1	3.2
	老年看護学	29	5	17.2	24	82.8	0	0.0	0	0.0
	精神看護学	28	4	14.3	22	78.6	4	14.3	0	0.0
	母性看護学	30	7	23.3	21	70.0	2	6.7	0	0.0
	在宅・地域看護	30	3	10.0	27	90.0	1	3.3	0	0.0
4 年 制 大学	基礎看護学	32	4	12.5	27	84.4	4	12.5	2	6.3
	小児看護学	25	1	4.0	23	92.0	2	8.0	6	24.0
	成人看護学	26	3	11.5	24	92.3	1	3.8	3	11.5
	老年看護学	27	2	7.4	21	77.8	4	14.8	3	11.1
	精神看護学	28	3	10.7	21	75.0	5	17.9	1	3.6
	母性看護学	24	4	16.7	20	83.3	1	4.2	2	8.3
	在宅・地域看護	29	2	6.9	27	93.1	1	3.4	0	0.0

資料Ⅲ－４：教育内容の調整

		対象数	a. 看護学全領域で調整している		b. 必要に応じて調整している		c. 調整していない		無回答	
			数	%	数	%	数	%	数	%
専3 門年 学課 校程	基礎看護学	38	17	44.7	21	55.3	0	0.0	1	2.6
	小児看護学	38	12	31.6	25	65.8	1	2.6	0	0.0
	成人看護学	41	12	29.3	28	68.3	1	2.4	0	0.0
	老年看護学	41	18	43.9	23	56.1	0	0.0	0	0.0
	精神看護学	37	8	21.6	29	78.4	0	0.0	0	0.0
	母性看護学	36	12	33.3	24	66.7	0	0.0	0	0.0
	在宅・地域看護	37	18	48.6	17	45.9	2	5.4	1	2.7
短期 大学	基礎看護学	31	6	19.4	24	77.4	1	3.2	0	0.0
	小児看護学	28	3	10.7	22	78.6	3	10.7	0	0.0
	成人看護学	31	5	16.1	26	83.9	0	0.0	1	3.2
	老年看護学	27	0	0.0	25	92.6	2	7.4	2	7.4
	精神看護学	28	5	17.9	22	78.6	1	3.6	0	0.0
	母性看護学	28	2	7.1	24	85.7	2	7.1	2	7.1
	在宅・地域看護	28	3	10.7	21	75.0	4	14.3	2	7.1
4 年 制 大学	基礎看護学	32	4	12.5	24	75.0	4	12.5	2	6.3
	小児看護学	31	5	16.1	24	77.4	2	6.5	0	0.0
	成人看護学	28	7	25.0	19	67.9	2	7.1	1	3.6
	老年看護学	30	6	20.0	22	73.3	2	6.7	0	0.0
	精神看護学	29	5	17.2	20	69.0	4	13.8	0	0.0
	母性看護学	25	5	20.0	16	64.0	4	16.0	1	4.0
	在宅・地域看護	29	2	6.9	25	86.2	2	6.9	0	0.0

資料Ⅲ－５：＜教育単位構築にあたっての意図（考え方）＞に関する意見

		対象数	a. 適切である		b. その他の意見がある		c. 無回答	
			数	%	数	%	数	%
専 3 門 年 学 課 校 程	基 礎 看 護 学	39	27	69.2	12	30.8	0	0.0
	小 児 看 護 学	38	34	89.5	4	10.5	0	0.0
	成 人 看 護 学	40	25	62.5	15	37.5	1	2.5
	老 年 看 護 学	39	33	84.6	6	15.4	2	5.1
	精 神 看 護 学	36	33	91.7	3	8.3	1	2.8
	母 性 看 護 学	36	30	83.3	6	16.7	0	0.0
	在 宅・地 域 看 護	31	24	77.4	7	22.6	7	22.6
短 期 大 学	基 礎 看 護 学	29	21	72.4	8	27.6	2	6.9
	小 児 看 護 学	25	21	84.0	4	16.0	3	12.0
	成 人 看 護 学	32	17	53.1	15	46.9	0	0.0
	老 年 看 護 学	28	17	60.7	11	39.3	1	3.6
	精 神 看 護 学	26	20	76.9	6	23.1	2	7.7
	母 性 看 護 学	25	20	80.0	5	20.0	5	20.0
	在 宅・地 域 看 護	27	16	59.3	11	40.7	3	11.1
4 年 制 大 学	基 礎 看 護 学	29	15	51.7	14	48.3	5	17.2
	小 児 看 護 学	30	19	63.3	11	36.7	1	3.3
	成 人 看 護 学	27	19	70.4	8	29.6	2	7.4
	老 年 看 護 学	29	17	58.6	12	41.4	1	3.4
	精 神 看 護 学	27	14	51.9	13	48.1	2	7.4
	母 性 看 護 学	24	15	62.5	9	37.5	2	8.3
	在 宅・地 域 看 護	28	15	53.6	13	46.4	1	3.6

資料Ⅲ－6：各教育単位にとりあげている“看護技術”に関する意見

		対象数	a. 適切である		b. その他の意見がある		c. 無回答	
			数	%	数	%	数	%
専3 門年 学課 校程	基礎看護学	39	25	64.1	14	35.9	0	0.0
	小児看護学	37	30	81.1	7	18.9	1	2.7
	成人看護学	38	28	73.7	10	26.3	3	7.9
	老年看護学	39	24	61.5	15	38.5	2	5.1
	精神看護学	37	32	86.5	5	13.5	0	0.0
	母性看護学	36	22	61.1	14	38.9	0	0.0
短期 大学	在宅・地域看護	33	25	75.8	8	24.2	5	15.2
	基礎看護学	30	19	63.3	11	36.7	1	3.3
	小児看護学	25	16	64.0	9	36.0	3	12.0
	成人看護学	31	10	32.3	21	67.7	1	3.2
	老年看護学	28	17	60.7	11	39.3	1	3.6
	精神看護学	27	21	77.8	6	22.2	1	3.7
4年 制 大学	母性看護学	25	11	44.0	14	56.0	5	20.0
	在宅・地域看護	25	18	72.0	7	28.0	5	20.0
	基礎看護学	29	12	41.4	17	58.6	5	17.2
	小児看護学	30	14	46.7	16	53.3	1	3.3
	成人看護学	26	12	46.2	14	53.8	3	11.5
	老年看護学	29	13	44.8	16	55.2	1	3.4
	精神看護学	25	8	32.0	17	68.0	4	16.0
	母性看護学	23	10	43.5	13	56.5	3	13.0
	在宅・地域看護	27	10	37.0	17	63.0	2	7.4

資料Ⅲ－７：教育単位の内容の構成を“前提”“中心的に取り上げる学修内容”“発展・向上にかかわる内容”
として整理することに関する意見

		対象数	a. 適切である		b. その他の意見がある		c. 無回答	
			数	%	数	%	数	%
専 3 門 年 学 課 校 程	基 礎 看 護 学	38	35	92.1	3	7.9	1	2.6
	小 児 看 護 学	36	33	91.7	3	8.3	2	5.6
	成 人 看 護 学	40	35	87.5	5	12.5	1	2.5
	老 年 看 護 学	37	34	91.9	3	8.1	4	10.8
	精 神 看 護 学	37	32	86.5	5	13.5	0	0.0
	母 性 看 護 学	35	30	85.7	5	14.3	1	2.9
	在 宅・地 域 看 護	32	31	96.9	1	3.1	6	18.8
短 期 大 学	基 礎 看 護 学	30	25	83.3	5	16.7	1	3.3
	小 児 看 護 学	27	23	85.2	4	14.8	1	3.7
	成 人 看 護 学	31	23	74.2	8	25.8	1	3.2
	老 年 看 護 学	28	22	78.6	6	21.4	1	3.6
	精 神 看 護 学	26	22	84.6	4	15.4	2	7.7
	母 性 看 護 学	25	22	88.0	3	12.0	5	20.0
4 年 制 大 学	在 宅・地 域 看 護	23	21	91.3	2	8.7	7	30.4
	基 礎 看 護 学	29	25	86.2	4	13.8	5	17.2
	小 児 看 護 学	31	22	71.0	9	29.0	0	0.0
	成 人 看 護 学	25	23	92.0	2	8.0	4	16.0
	老 年 看 護 学	27	19	70.4	8	29.6	3	11.1
	精 神 看 護 学	26	20	76.9	6	23.1	3	11.5
	母 性 看 護 学	23	17	73.9	6	26.1	3	13.0
在 宅・地 域 看 護	26	17	65.4	9	34.6	3	11.5	

資料Ⅲ－８：教育単位の展開の中で、“中心的に取り上げる学修内容”に見合う“教育方法”と“教育評価”の組み入れの必要性に関する意見

		対象数	a. 必要である		b. その他の意見がある		c. 無回答	
			数	%	数	%	数	%
専3 門年 学課 校程	基礎看護学	36	33	91.7	3	8.3	3	8.3
	小児看護学	38	35	92.1	3	7.9	0	0.0
	成人看護学	38	38	100.0	0	0.0	3	7.9
	老年看護学	35	33	94.3	2	5.7	6	17.1
	精神看護学	37	34	91.9	3	8.1	0	0.0
	母性看護学	33	31	93.9	2	6.1	3	9.1
	在宅・地域看護	30	28	93.3	2	6.7	8	26.7
短期 大 学	基礎看護学	30	27	90.0	3	10.0	1	3.3
	小児看護学	27	23	85.2	4	14.8	1	3.7
	成人看護学	29	28	96.6	1	3.4	3	10.3
	老年看護学	26	23	88.5	3	11.5	3	11.5
	精神看護学	24	23	95.8	1	4.2	4	16.7
	母性看護学	25	22	88.0	3	12.0	5	20.0
	在宅・地域看護	22	22	100.0	0	0.0	8	36.4
4 年 制 大 学	基礎看護学	27	20	74.1	7	25.9	7	25.9
	小児看護学	29	21	72.4	8	27.6	2	6.9
	成人看護学	26	21	80.8	5	19.2	3	11.5
	老年看護学	28	21	75.0	7	25.0	2	7.1
	精神看護学	24	19	79.2	5	20.8	5	20.8
	母性看護学	23	20	87.0	3	13.0	3	13.0
	在宅・地域看護	24	21	87.5	3	12.5	5	20.8

資料IV. 認知領域面の教育基準

- IV-1. 基礎看護学：認知領域面の教育基準－教育単位と教育内容
- IV-2. 小児看護学：認知領域面の教育基準－教育単位と教育内容
- IV-3. 成人看護学：認知領域面の教育基準－教育単位と教育内容
- IV-4. 老年看護学：認知領域面の教育基準－教育単位と教育内容
- IV-5. 精神看護学：認知領域面の教育基準－教育単位と教育内容
- IV-6. 母性看護学：認知領域面の教育基準－教育単位と教育内容
- IV-7. 在宅・地域看護学：認知領域面の教育基準－教育単位と教育内容

基礎看護学：認知領域面の教育基準—教育単位と教育内容

No. 1

<教育単位構築の意図>

看護学は、看護の哲学・倫理等を基盤に人間を総合的に理解し、専門的知識・技術・態度により統合された看護技術を用いて、対象が必要とするニーズの充足を目指して意図的に援助を行う実践科学であり、基礎看護学は看護学の基盤となる領域として位置づけられる。そこで、看護実践の全体像を整理した内容を基にして、基礎看護学にふさわしい支柱を示す6つの観点から捉えた。

- 1) 看護の原理・看護の対象論・看護理論・看護倫理を基盤に看護実践ができる。
- 2) 生命維持に必要な人間の基本的ニーズを充足できる（生理的・心理的・社会的・霊的基本ニーズ）。
- 3) 健康障害・加齢・事故・災害・死に伴う身体的・心理的・社会的課題に対応できる。
- 4) 対象の安楽・安寧、適応と自立などを考慮した看護の独自の機能を発揮できる。
- 5) 看護の実践展開過程の基盤となる方法論（関係形成、健康問題の査定、クリティカルシンキング、看護過程）を用いた看護実践ができる。
- 6) 現代の医療・看護状況と関わりながら変化を捉えた対応ができる（看護シナプス、看護研究、診断・治療過程に関する援助）。

これらを基にして学修のまとまりとしての11の「教育単位」を構成し、教育単位ごとに教育内容を吟味・調整した。教育内容については、教育単位ごとに、基礎看護学でとりあげる看護技術と認知領域の学修内容の両面から具体化した。実際には、種々の教育条件を考慮の上、学修内容が深化・向上・発展できるように教育単位を配列すると共に、学修者の創意・工夫、変化への対応を可能にする教育方法・教育評価を採用して展開する。

教育単位	教育内容	認知領域面の学修内容
I. 看護実践の基盤となる ・ 看護の原理 ・ 看護の対象論 ・ 看護理論 ・ 看護倫理と法	とりあげる看護技術	1. 看護の原理 及び概念間の関係性 ① 看護の目的・役割・機能 ② 生活の概念 ③ 自己と他者の理解 ④ 看護の歴史 ⑤ 看護技術論 ⑥ 看護技術の概念：技術とは、技能と技術、技術の変遷 ・ 看護技術の捉え方（安全・安楽・自立の視点） ・ 確実な技（心をこめた実践=tender loving care)

教 育 単 位	と り あ げ る 看 護 技 術	育 内 容 認 知 領 域 面 の 学 修 内 容
Ⅱ. 生理的基礎に関する看護	2. 看護の対象論 ≪該当看護技術なし≫ 3. 看護理論 ≪該当看護技術なし≫ 4. 看護の倫理と法 ≪該当看護技術なし≫ 1. 環境調整に関する技術 ①病床の整備 ②病室の環境調整 ③生活空間の調整	2. 看護の対象論 ①看護の対象の特性、特徴 ②個、集団としての存在 ③人間の心身の成長・発達・変化 ④健康障害の意味と障害に伴う人間の反応 ⑤人間の対処機制と適応 3. 看護理論 ①看護理論の定義 ②構成する主要概念 ③看護理論の範囲と活用の仕方 ④看護理論の変遷と理論の主張点 ⑤看護理論の分類・特徴・主な理論家 4. 看護の倫理と法 ①看護倫理に関する規律の遵守 ②看護と法 ③倫理の原則に基づいた看護 ④倫理的価値判断の基準に基づいた看護 ⑤患者の権利に関する宣言を理解した看護 ⑥自己決定のプロセス（インフォームド・コンセント、インフォームド・チョイス、セカンド・オピニオン） ⑦プライバシーの保護 ⑧情報開示請求への対処 1. 環境調整に関する知識 ①環境調整の意義と環境因子 ②環境が健康に及ぼす影響 ③病床の整備 ④病室の環境調整 ⑤生活空間の調整

教育単位	教育内容	
	技術	領域の学修内容
	<p>とりあげられる看護技術</p> <p>2. ボディメカニクスに関する技術</p> <p>①基本姿勢の保持</p> <p>②ボディメカニクス原理の看護実践への活用</p> <p>3. 起居・体位変換・移乗・移動に関する技術</p> <p>①体位変換</p> <p>②移乗・移動（車椅子、ストレッチャ一、歩行介助）</p> <p>③体位の保持（良肢位、安楽用品を用いた体位の保持）</p> <p>④運動・訓練の促進</p> <p>4. 睡眠・休息に関する技術</p> <p>①睡眠の調整</p> <p>②休息の調整</p> <p>5. 身体の清潔・整容・更衣に関する技術</p> <p>①整容</p> <p>②口腔の清潔</p> <p>③全身清拭（目・耳・鼻・爪を含む）</p> <p>④洗髪</p> <p>⑤入浴</p> <p>⑥部分浴（手浴、足浴）</p> <p>⑦陰部・肛門部洗浄</p> <p>⑧衣服の着脱</p>	<p>2. ボディメカニクスに関する知識</p> <p>①基本姿勢の保持</p> <p>②ボディメカニクス原理の看護実践への活用</p> <p>3. 起居・体位変換・移乗・移動に関する知識</p> <p>①健康の維持・増進に必要な技術</p> <p>②体位変換</p> <p>③移乗・移動（車椅子、ストレッチャ一、歩行介助）</p> <p>④体位の保持（良肢位、安楽用品を用いた体位の保持）</p> <p>⑤運動・訓練の促進</p> <p>4. 睡眠・休息に関する知識</p> <p>①活動と休息の意義とその関連</p> <p>②睡眠のメカニズムと睡眠リズム</p> <p>③睡眠の調整</p> <p>④休息の調整</p> <p>5. 身体の清潔・整容・更衣に関する知識</p> <p>①健康の維持・増進に必要な知識</p> <p>②整容</p> <p>③口腔の清潔</p> <p>④全身清拭（目・耳・鼻・爪を含む）</p> <p>⑤洗髪</p> <p>⑥入浴</p> <p>⑦部分浴（手浴、足浴）</p> <p>⑧陰部・肛門部洗浄</p> <p>⑨衣服の着脱</p>

教育単位	とりあげられる看護技術	教育内容	領域の学修内容
Ⅲ. 関係形成に関する看護	<p>6. 食事・栄養に関する技術 ①食事介助</p> <p>7. 排泄に関する技術 ①床上での排泄（便器・尿器の使用） ②ポータブルトイレ使用による排泄 ③排泄異常時への対応（腹部マッサージ、浣腸、導尿、留置カテーテル挿入中）</p> <p>8. 呼吸・循環・体温を整える技術 ①バイタルサインの観察と評価 ②環境・体位・衣服の調整 ③安静の確保 ④深呼吸の指導及び気道の加湿と保温</p>	<p>6. 食事・栄養に関する知識 ①健康の維持・増進に必要な知識 ②食事介助 ③経管栄養法</p> <p>7. 排泄に関する知識 ①健康の維持・増進に必要な知識 ②床上での排泄（便器・尿器の使用） ③ポータブルトイレ使用による排泄 ④おむつ交換 ⑤排泄異常時への対応（腹部マッサージ、浣腸、導尿、留置カテーテル挿入中） ⑥排便、尿失禁への援助</p> <p>8. 呼吸・循環・体温を整える知識 ①バイタルサインの観察と評価 ②環境・体位・衣服の調整 ③安静の確保 ④深呼吸の指導及び気道の加湿と保温</p>	<p>1. コミュニケーションに関する知識 ①クワイエット（患者）との対人関係 ②家族・外来者との対人関係 ③必要に応じた関係者間での対人関係 ④言語的・非言語的手段を用いたコミュニケーション ⑤カウンセリング技法を取り入れたコミュニケーション ⑥コミュニケーションの困難な人々への対応（聴力・言葉・感覚・意識障害者）</p>

教育単位	とりにあがる看護技術	教育領域内の学修内容
<p>IV. 健康問題の査定に関する看護</p>	<p>2. 面接に関する技術 ①健康問題をもつ患者に必要な面接技法</p> <p>1. 健康歴の聴取 2. 発達アセスメント (身体的発達、認知的発達、精神的発達、社会的発達) 3. ファジカルアセスメントの技術 (問診、視診、触診、打診、聴診) 4. 身体各部の系統別観察と診査 5. 身体計測 (身長、体重、座高、頭位、胸囲、腹囲) 6. 生体情報の測定 (体温測定、呼吸測定、呼吸音の聴取、心音の聴取、血圧測定、脈拍・心拍の同時測定、意識レベルの判定、経皮的動脈血液酸素飽和度測定、尿量・比重測定)</p>	<p>2. 面接に関する知識 ①健康問題をもつ患者に必要な面接技法</p> <p>1. 健康歴の聴取の内容と方法 2. 発達アセスメント (身体的発達、認知的発達、精神的発達、社会的発達) 3. ファジカルアセスメントに関する知識 (問診、視診、触診、打診、聴診) 4. 身体各部の系統別観察と診査の内容と方法 5. 身体計測 (身長、体重、座高、頭位、胸囲、腹囲) 6. 生体情報の測定 (体温測定、呼吸測定、呼吸音の聴取、心音の聴取、血圧測定、脈拍・心拍の同時測定、意識レベルの判定、経皮的動脈血液酸素飽和度測定、尿量・比重測定)</p>
<p>V. 看護の展開過程の基盤となる方法</p>	<p>1. クリテリカルシンキングに関する技術 ①クリテリカルシンキングの思考様式を踏まえた看護の展開 ②クリテリカルシンキングの気質 (態度) を備えた看護の展開</p> <p>2. 看護過程の展開技術 ①看護過程を支える基礎理論を踏まえた看護の展開</p>	<p>1. クリテリカルシンキングに関する知識 ①クリテリカルシンキングの思考様式を踏まえた看護の展開 ②クリテリカルシンキングの気質 (態度) を備えた看護の展開</p> <p>2. 看護過程の展開に関する知識 ①看護過程を支える基礎理論を踏まえた看護の展開 (発達に関する理論、欲求に関する理論、人間関係に関する理論、情報に関する理論、知覚に関する理論、意思決定に関する理論、問題解決に関する理論)</p>

教育単位	教 育 内 容	育 内 容
<p>VI. 心理的・社会的・基本的に関する看護</p>	<p>と っ と り あ げ る 看 護 技 術</p> <p>②看護過程の方法論を用いた看護の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報収集 ・看護診断 (情報の分類・解釈、分析・総合、問題の明確化、診断名の命名) ・計画立案 ・計画に基づく実践 ・評価 (再アセスメント、修正) <p>3. EBNに関する技術 《認知の学修に留める技術》</p> <p>4. 記録・報告に関する技術</p> <p>①看護に必要な記録 (健康歴、看護計画、叙述型経過記録、問題志向型経過記録：POS、体温表)</p> <p>②報告 (口頭・電話・文書による継続伝達・確認を含む)</p> <p>1. 精神的・霊的側面への技術</p> <p>①精神的欲求の未充足状況の観察とアセスメント</p> <p>②ケアリング (傾聴、慰め、共感、共在、タッチング、希望の付与、支持、元気づけ)</p> <p>③対象の文化・祭事を考慮した生活援助</p> <p>④宗教を尊重した生活援助</p>	<p>認 知 領 域 面 の 学 修 内 容</p> <p>②看護過程の方法論を用いた看護の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報収集 ・看護診断 (情報の分類・解釈、分析・総合、問題の明確化、診断名の命名) ・計画立案 ・計画に基づく実践 ・評価 (再アセスメント、修正) <p>3. EBNに関する知識</p> <p>①EBNの定義・概念</p> <p>②EBNの過程</p> <p>4. 記録・報告に関する知識</p> <p>①看護に必要な記録 (健康歴、看護計画、叙述型経過記録、問題志向型経過記録：POS、体温表、クリイティカルパス、種々のフローシートの記録、中間サマリー、退院サマリー等の記録)</p> <p>②電子カルテ使用による記録</p> <p>③報告 (口頭・電話・文書による継続・伝達・確認を含む)</p> <p>1. 精神的・霊的側面への援助に関する知識</p> <p>①精神的欲求の未充足状況の観察とアセスメント</p> <p>②ケアリング (傾聴、慰め、共感、共在、タッチング、希望の付与、支持、元気づけ)</p> <p>③対象の文化・祭事を考慮した生活援助</p> <p>④宗教を尊重した生活援助</p>

教育単位	とりあげられる看護技術	教育内容
VII. 診断・治療過程に関する看護	<p>2. クライエントの学修環境を整える技術 《認知の学修に留める技術》</p> <p>3. 人の死の過程に関わる技術 ①死を迎える人への対応 ②死と死後の遺体への対応（死後の処置）</p> <p>4. 日常生活過程に関わる苦痛予防と安楽及び苦痛緩和に関する技術 ①苦痛予防・安楽（リラクゼーション・トレーニング、気分転換活動の援助患者に適した生活用品の選択） ②苦痛緩和（心地よい睡眠への導入と快適な目覚め、快適な学修・遊び・労働の環境作り）</p>	<p>2. クライエントの学修環境の調整に関する知識 ①学修環境・施設・システムの情報提供 ②学修環境の調整</p> <p>3. 人の死の過程に関わる知識 ①死を迎える人への対応 ②臨終を迎える家族への対応 ③死と死後の遺体への対応（死後の処置、死の徴候の観察、医師の死亡判定の確認、患者と家族のお別れの環境作り）</p> <p>4. 日常生活過程に関わる苦痛予防と安楽及び苦痛緩和の知識 ①苦痛予防・安楽（リラクゼーション・トレーニング、気分転換活動の援助、患者に適した生活用品の選択、ストレス・マネージメントの指導） ②苦痛緩和（心地よい睡眠への導入と快適な目覚め、快適な学修・遊び・労働の環境作り）</p>
	<p>1. 検査・検体採取に関する技術 ①検体採取（採尿、採便、痰採取、静脈血採取）</p> <p>2. 診察に関する技術 ①診察の介助（診察前の準備と介助、診察中・診察後の介助） ②身体各部の診察の介助</p> <p>3. 薬物療法に関する技術 ①薬物療法とその管理（経口剤、舌下錠、皮下</p>	<p>1. 検査・検体採取に関する看護の知識 ①検体採取（採尿、採便、痰採取、静脈血採取） ②穿刺時の介助 ③検査時の介助</p> <p>2. 診察に関する看護の知識 ①診察の介助（診察前の準備と介助、診察中・診察後の介助） ②身体各部の診察の介助</p> <p>3. 薬物療法に関する看護の知識 ①薬物療法とその管理（経口剤、舌下錠、経皮剤、座薬、点眼薬、点鼻薬、点耳</p>